

— 目 次 —

■若者は語る…〈座談会〉……………8
 司会・熊大教授 有田 一郎

■後継者対策……………15

■若人と国際交流……………26

◎九州青年の船事業
 ・九州青年の船に乗船して…〈滝口幸司〉…27

◎青年海外派遣事業……………28
 青年の船事業
 ・長期派遣に参加して……………〈森田良光〉…28
 ・青年海外派遣に参加して…〈山本和子〉…29

◎海外派遣農業実習生制度……………30
 派米農業研修生制度
 ・派米農業研修生研修概要…〈上野政重〉…30

◎青年海外協力隊事業……………31
 ・二年に賭けた青春……………〈野田正治〉…31

◎海外技術研修員受入事業……………32
 県費留学生受入事業
 ・私の感じた日本…〈エドアルド・コルデロ〉…32

■〈この人と30分〉
 漆工芸家 高野 松山……………33

■熊本の経済……………安藤 正…36
 熊本の経済雑感

■わが町わが村…〈阿蘇郡高森町〉……………25

■グラビアページ

・〈ふるさとの心〉…田原坂……………3
 ・熊本県農業コンクール受賞者(昭和48年度)…17
 ・カラー熊本……………18
 ・豊かな郷土づくりをめざして……………20
 ・ある青春……………22
 ・ボランティア活動……………37
 ・美しい熊本づくり……………38

随 想 欄……………6
 竹崎深江・吉村 滋・柿村 房

表紙は「肥後ごまと人吉羽子板」
 ひと昔前まで正月には男の子はこま、女の子は羽子板と決まっ
 っていましたね、人吉羽子板は平家の落人がつくったものと伝え
 られています。



▲西南の役戦没者慰霊の碑



▲弾痕の家

「田原坂」

明治十年西南の役で思い出されるのが田原坂、この田原坂が植木町の西方にある。

明治十年二月十五日鹿兒島をたつた薩軍は同月二十二日未明に熊本城を包囲、総攻撃を開始、一方別動隊が植木方面に進出し南下する官軍に備えた。

官軍では谷熊本鎮台司令官が乃木に救援命令を出し、乃木連隊は小倉を出発、熊本に向ったが、途中向坂(植木町南方)の激戦で敗北し連隊旗を奪われた。責任を感じた乃木少佐は植木にひきかえし、自決せんとした場所千本桜も国道二〇八号線沿いにある。田原坂激戦での兵力は官軍一万五千、薩軍一万であった。田原坂からはるかに見える二俣、横平山、半高山、吉次峠等には連日連夜白兵戦が展開され、しかばねを山と積む悲惨事が続き、陣地の争奪にしのぎを削っていたが、三月二十日未明官軍は夜の大雨に防備の薄い舟底(田原坂のすぐ下)方面の薩軍を攻撃し、周章狼狽する七本陣(薩軍)が退却敗走するに及び田原坂はかんらく、十八昼夜にわたる攻防戦に終止符をうった。田原坂周辺の両軍の戦死者は一万三千余といわれている。

明治十三年十月に立てられた記念碑は有栖川の宮熾仁親王殿下のご撰文並びに篆額である。昭和三十三年四月には西南役八十周年を迎えるにあたり町では、官軍薩軍戦没の名将勇士及びこれに関連ある人々の英霊を弔うために慰霊塔を建立、高さ約十五メートルにおよぶ塔が空高くそびえ、ここかしこにつつじ、桜、楠などが植えられ、かつての激戦地も美しい公園となり人々に親しまれている。

(植木町)